

健康スコアリング(2018年度版)の効果検証結果 【概要】

効果検証に向けた保険者アンケートの実施

- 健康スコアリングレポート（2018年度版）の発送後、健保組合に対し、スコアリングレポートに関するアンケートを実施。

	保険者アンケート
調査客体	全健保組合（1376組合） ※平成29年4月1日以降の新設組合は除く
回答数	1 1 2 4 組合（回答率81.7%） （単一：895組合、総合：229組合）
調査期間	平成30年10月26日～11月15日
実施主体	厚労省

特定健診・保健指導実施率とコラボヘルスの重要性

● コラボヘルス実施の有無と特定健診・特定保健指導実施率の総合評価をみると、コラボヘルス未実施の保険者ほど、総合評価のスコアが悪い傾向にある。

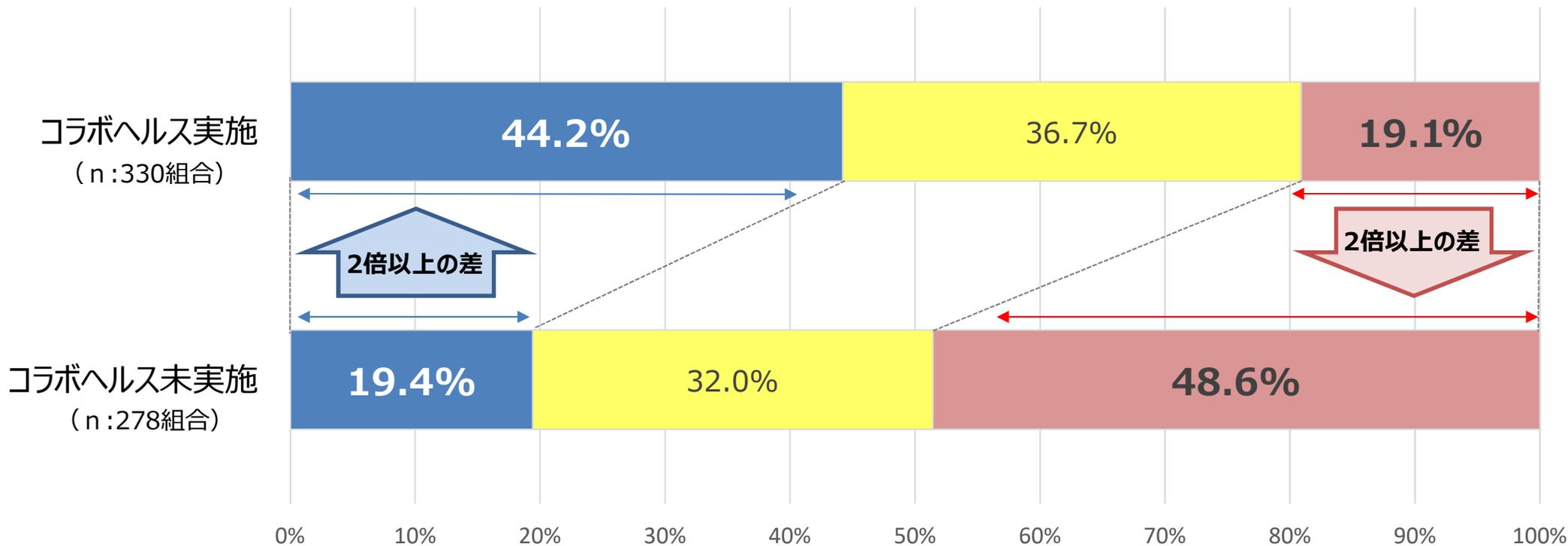
コラボヘルスと特定健診等実施率の相関

※コラボヘルス実施の有無について

「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」

「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

■ スコア上位 ■ スコア中位 ■ スコア下位

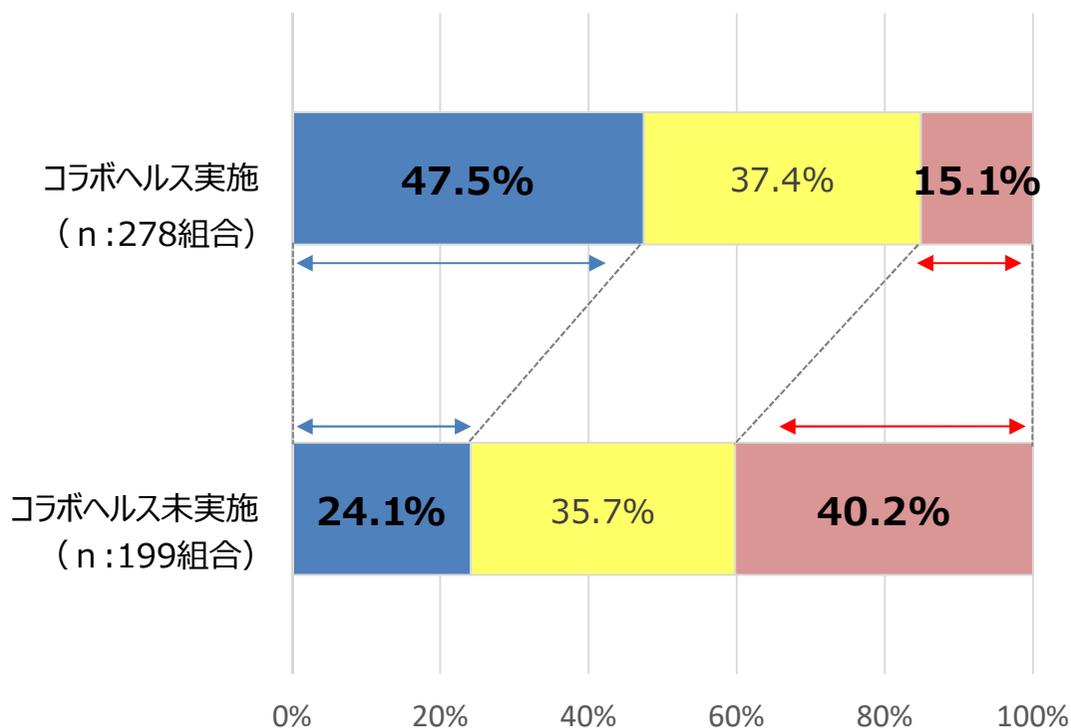


(参考) 単一・総合ともコラボヘルス実施保険者の方が特定健診等実施率のスコアが高い

- コラボヘルス実施の有無と特定健診・特定保健指導実施率の総合評価を、単一組合・総合組合に分けて比較しても、コラボヘルス未実施の保険者ほど、総合評価のスコアが悪い傾向にある。

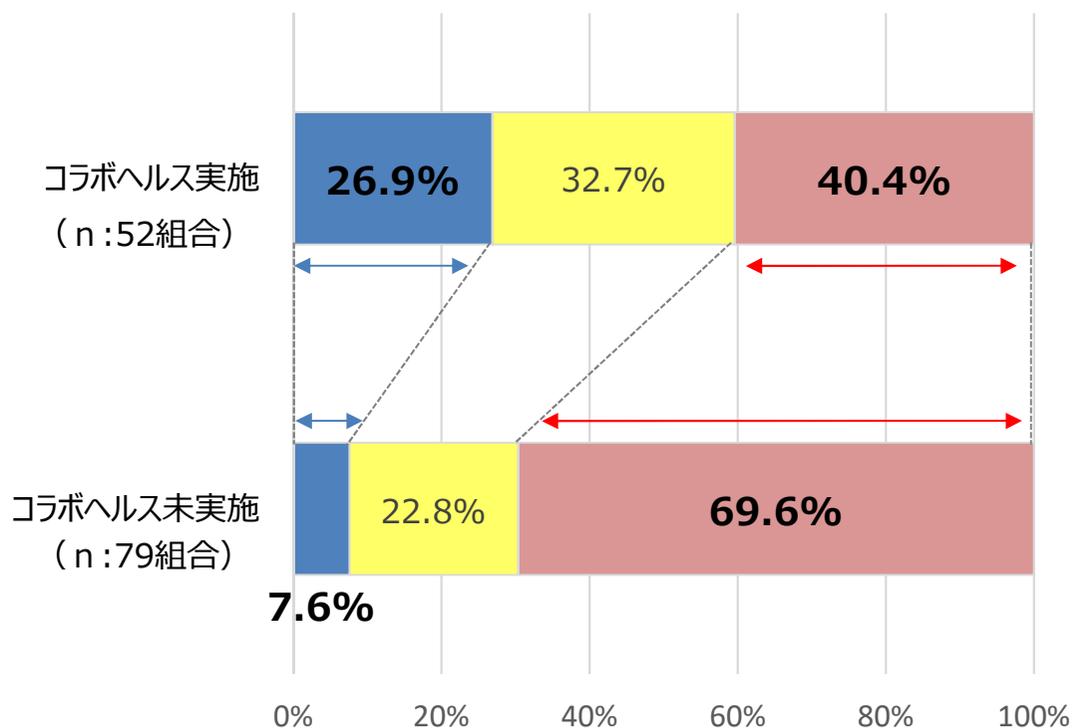
単一組合 (n:895組合)

■ スコア上位 ■ スコア中位 ■ スコア下位



総合組合 (n:229組合)

■ スコア上位 ■ スコア中位 ■ スコア下位



スコアリングと経営者宛てレターの共有状況

- 単一健保は、「社長・会長」に比べ「副社長・専務等」へ共有（予定含む）する傾向。
- 総合健保は、単一健保と異なり、「社長・会長」へ共有（予定含む）する割合が高い。

単一健保 (n=879組合)

	共有した	共有する 予定	共有する 予定はない
社長・会長	17.1%	39.6%	40.4%
	└─ 56.7% ─┘		
副社長・専務・常務等	41.8%	30.5%	25.4%
	└─ 72.3% ─┘		
産業保健スタッフ (産業医等)	38.4%	34.2%	24.4%
企業担当者 (部長・人事担当者等)	67.5%	25.5%	6.0%

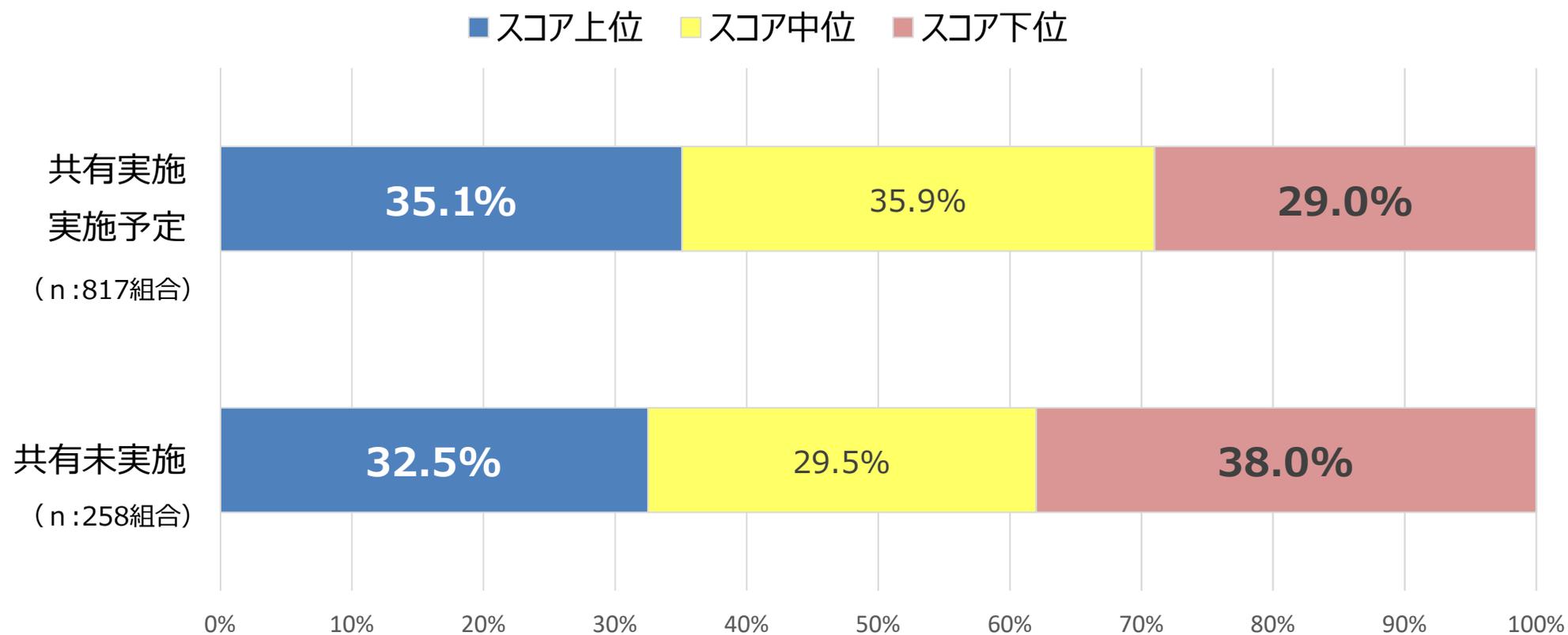
総合健保 (n=218組合)

	共有した	共有する 予定	共有する 予定はない
社長・会長	23.1%	49.3%	24.0%
	└─ 72.4% ─┘		
副社長・専務・常務等	14.0%	42.8%	36.2%
	└─ 56.8% ─┘		
産業保健スタッフ (産業医等)	10.0%	23.6%	56.8%
企業担当者 (部長・人事担当者等)	28.4%	41.5%	27.1%

特定健診・保健指導実施率と共有状況の相関

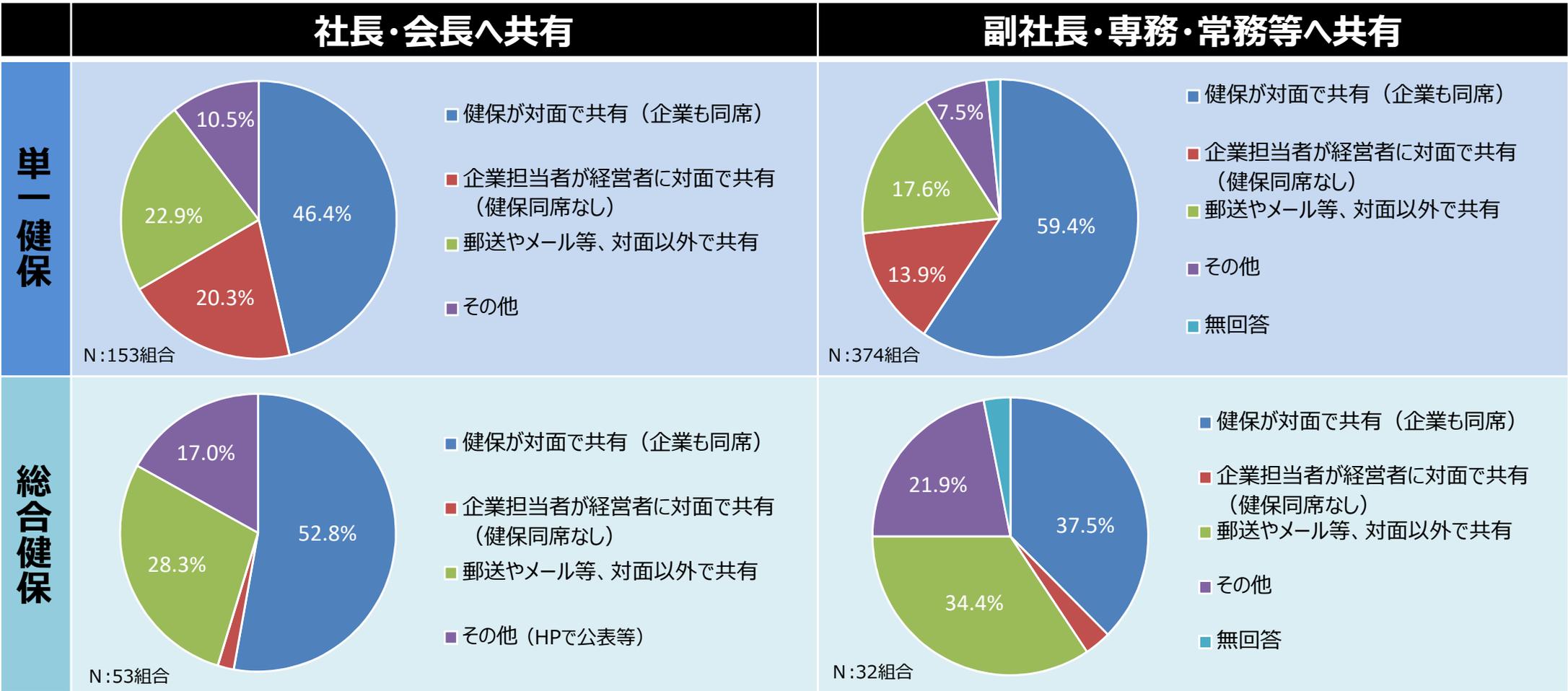
- 経営者との共有状況と特定健診・特定保健指導実施率の総合評価をみると、スコアの違いによって共有状況に差はあまり見られなかった。

経営者への共有状況と特定健診等実施率の相関



単一健保・総合健保における経営層への共有方法

- 単一健保は、約半数の組合が「健保が対面で共有」と回答。特に副社長・専務等への共有にあたっては対面での対応の割合が高い。
- 総合健保も、約半数の組合が社長・会長への共有において「健保が対面で共有」と回答するが、副社長・専務等への共有にあたっては、郵送・メール等の非対面での対応割合が高い。

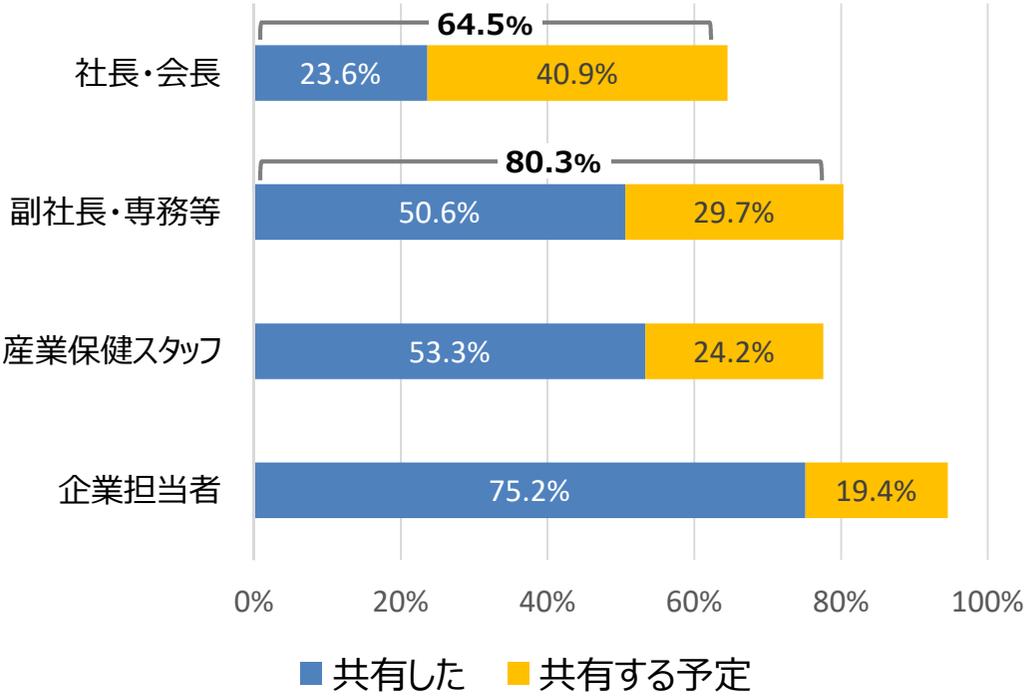


コラボヘルス実施保険者の方が経営層への共有状況が良い

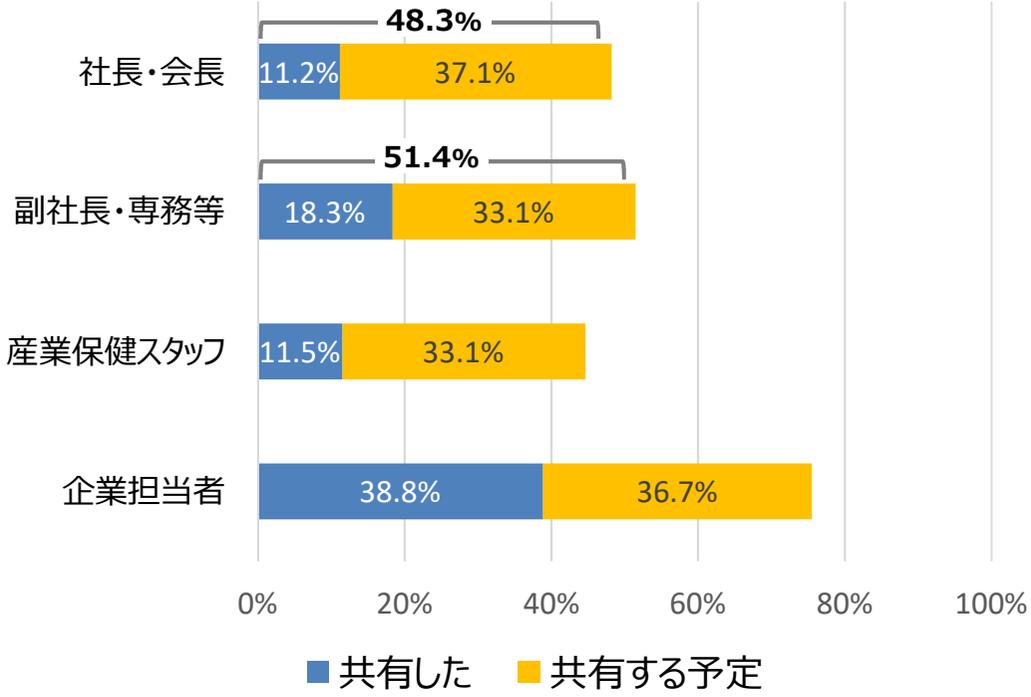
● コラボヘルス実施の有無で比較すると、既にコラボヘルスを実施している保険者の方が、経営層へ共有（予定を含む）している。

コラボヘルス実施の有無別（クロス分析）

既に実施（n=330組合）



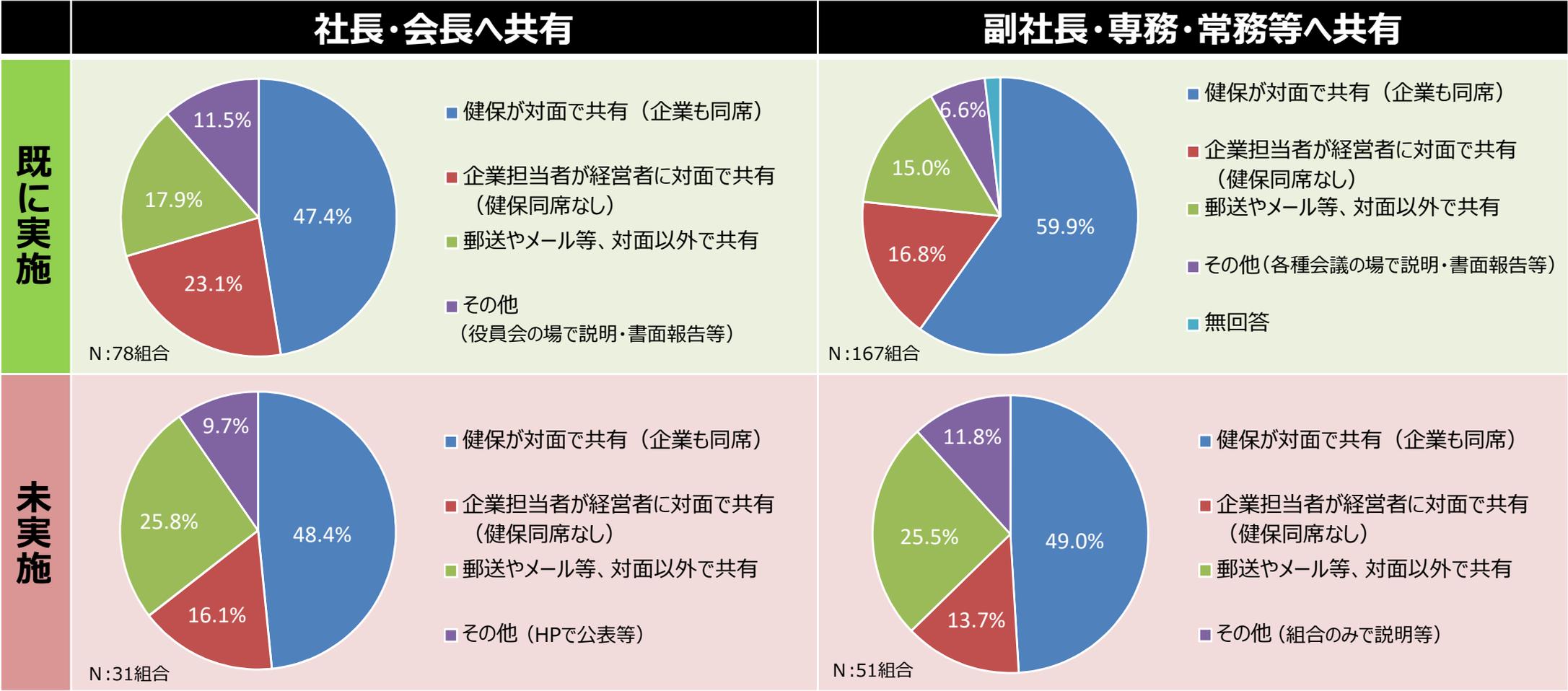
未実施（n=278組合）



「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

コラボヘルス実施有無による共有方法の違い

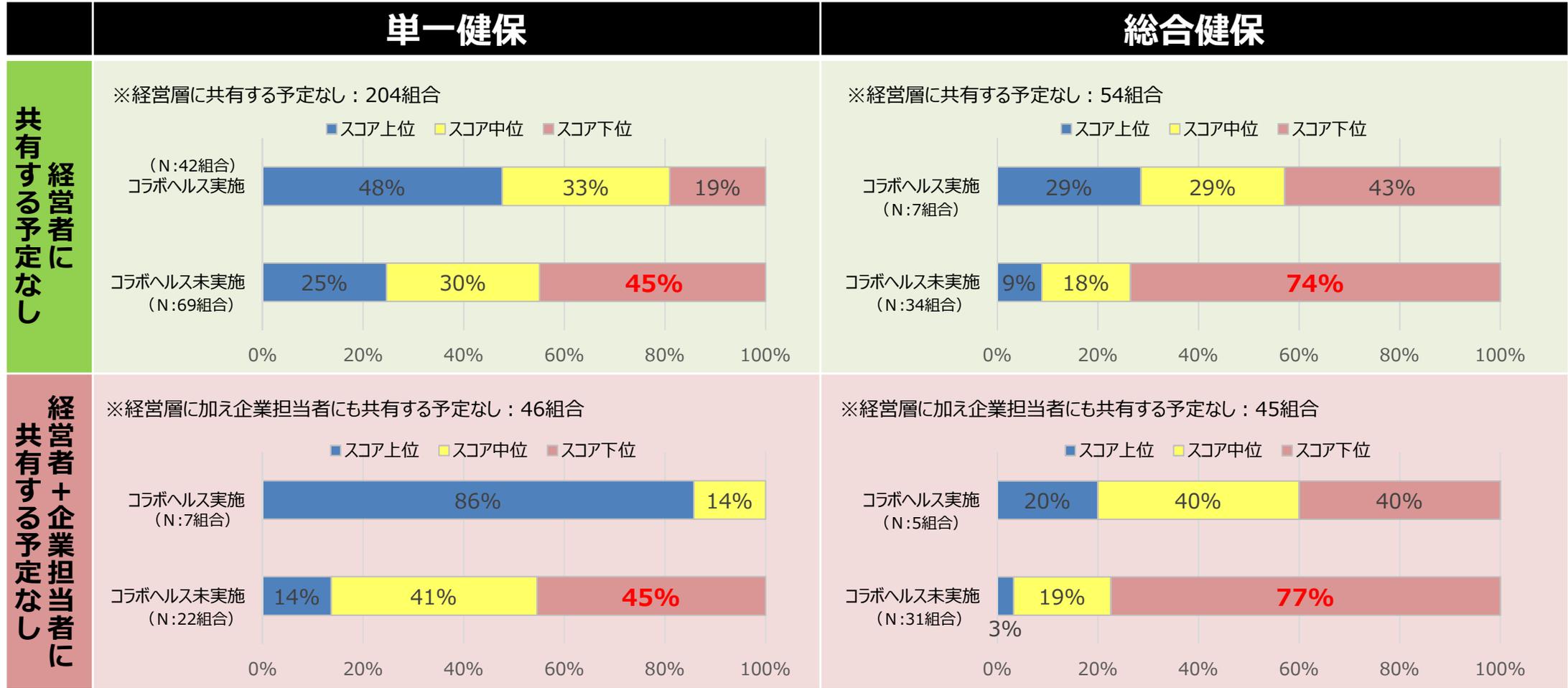
- コラボヘルス実施の有無にかかわらず、約半数の組合は「健保が対面で共有」と回答。
- コラボヘルス未実施の方が、企業担当者の対応割合が低く、対面以外の「郵送やメール等」で共有している割合が高い。



※「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
 「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

スコアリングを経営者へ共有していない健保組合の特徴

● 経営層へ共有していない健保組合のうち、約4割はコラボヘルス未実施。当該健保組合は、特定健診等実施率のスコアが相対的に低く、経営層に加え企業担当者にも共有していない健保組合ほど、その傾向が顕著。



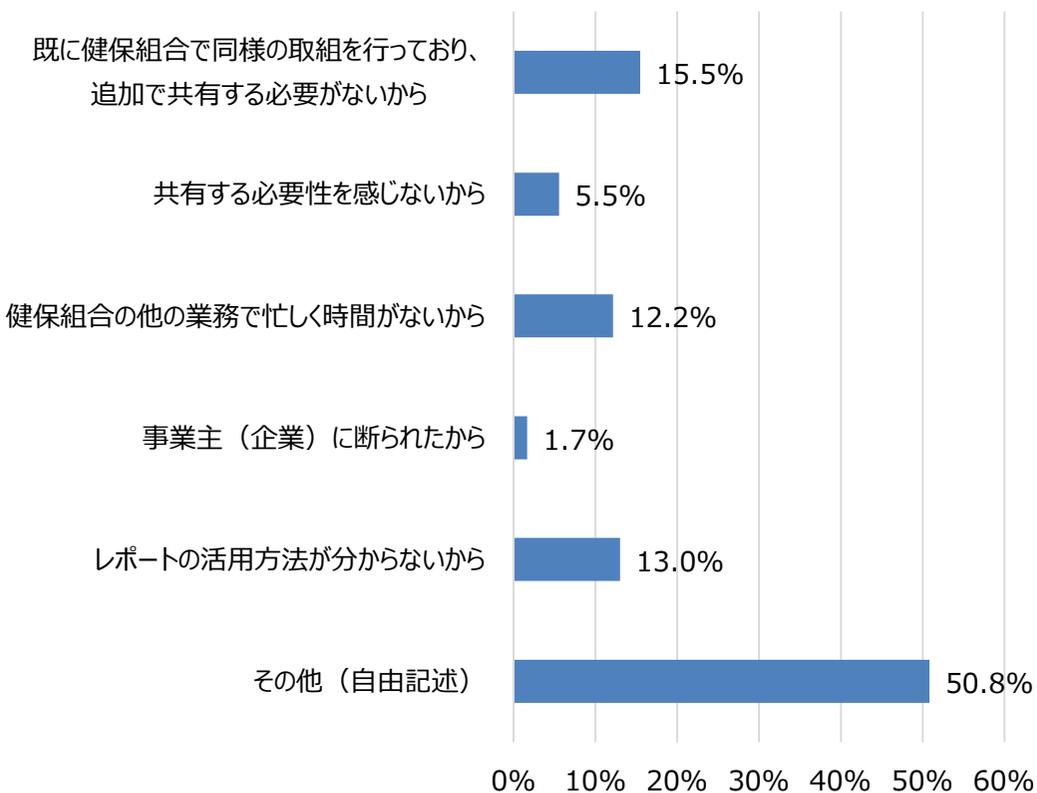
「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
 「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

経営者層へ共有しない理由

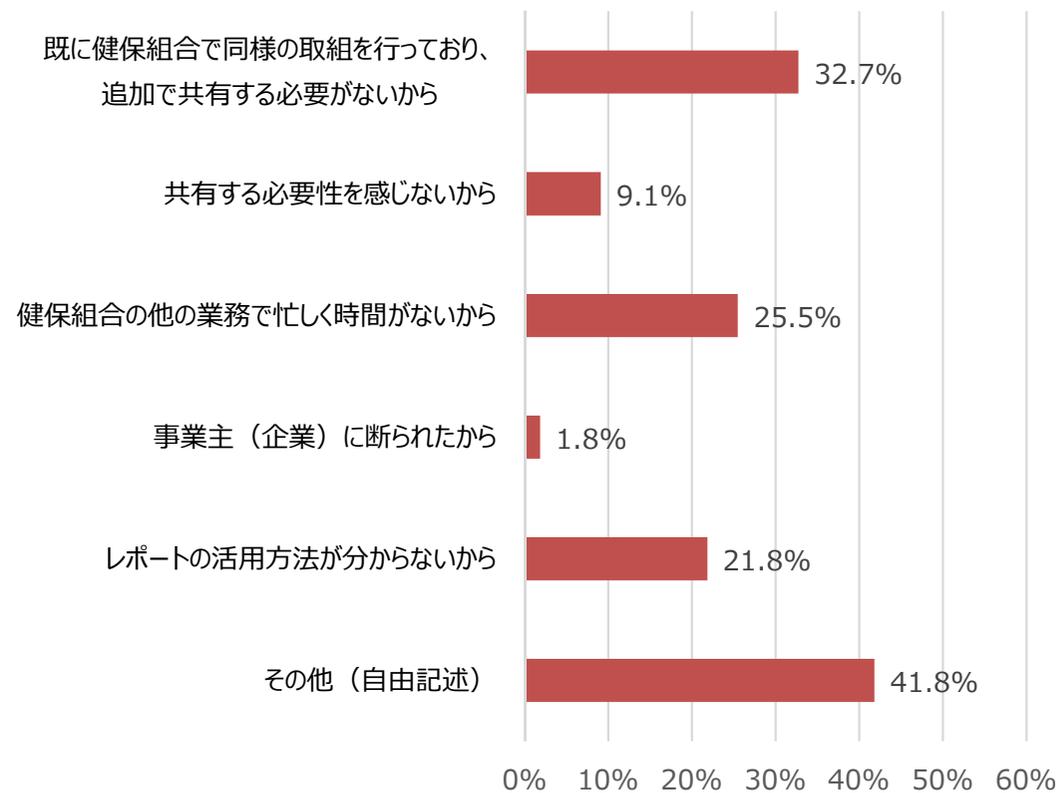
- 経営者（社長・会長）に共有しない理由としては、「既に同様の取組を実施している」「業務多忙」「活用方法が分からない」と回答する組合が一定程度存在。（自由記述については後述）

経営者に共有しない理由（複数回答）

単一健保（n=362組合）



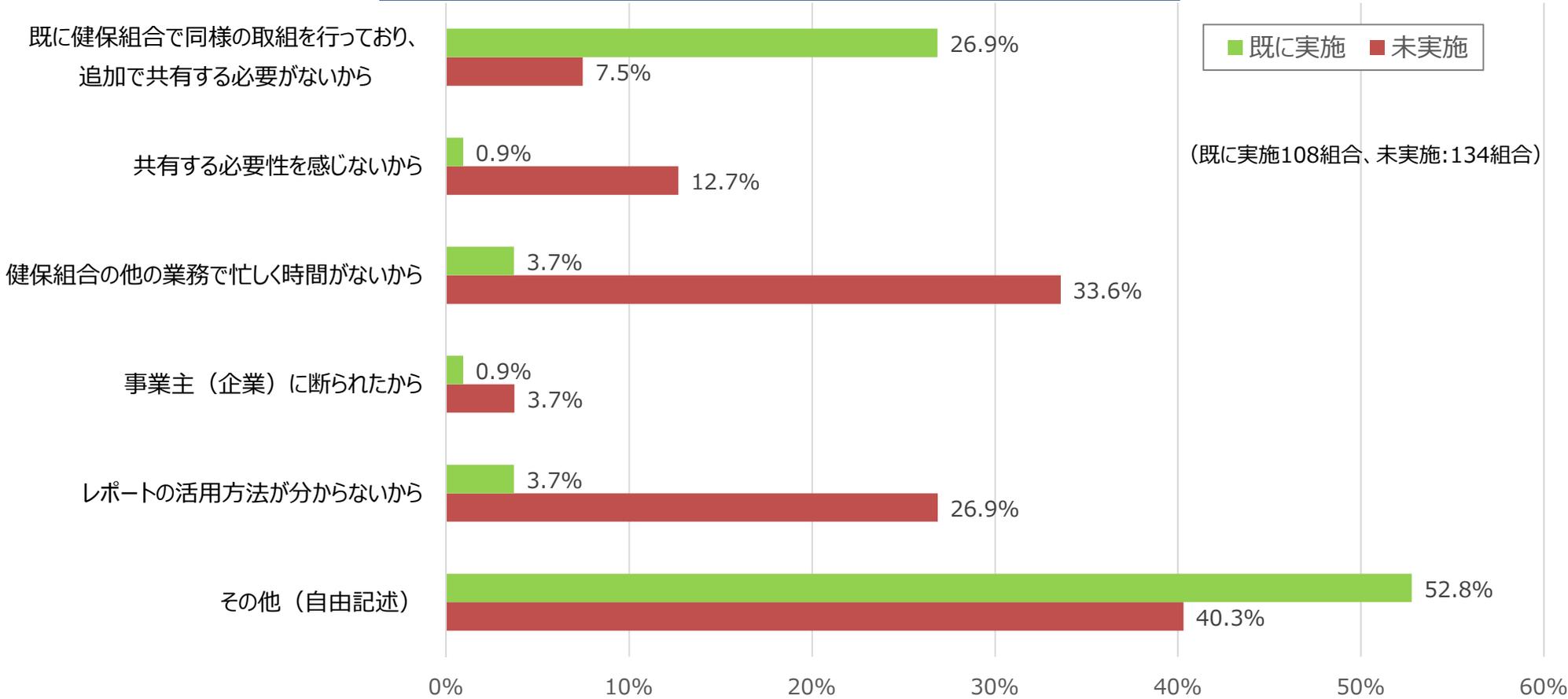
総合健保（n=55組合）



コラボヘルス未実施保険者ほど共有未実施の理由はネガティブ

● コラボヘルス実施の有無で比較すると、既に実施している組合は「既に同様の取組を実施している」との回答が多く、未実施の組合ほど「業務多忙」「活用方法が分からない」を理由に、経営者（社長・会長）へ共有していない状況。（自由記述については後述）

コラボヘルス実施の有無別（クロス分析・複数回答）



「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
 「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

経営者へ共有していない主な理由は6つの区分に分けられる

- 経営者（社長・会長）に共有しない主な理由は以下6点（自由記述:207件）。
- 「事業主単位でないため」「担当役員等が既にいるため」との回答が多く、次いで、「企業側に委ねているため」「今後対応を検討」「体制・環境が不十分」との意見が多い。

事業主単位のレポートが必要 15%

- ✓ グループ全体の数字では、各事業主への説明には適さないため
- ✓ 1事業主ごとのレポートではないため説明が難しい
- ✓ 事業主数が多く、健保全体分で説明しても理解が得られにくいと判断
- ✓ 事業主数が多いので共有できない

担当役員等への報告で代替 24%

- ✓ CHOや担当役員（常務など）と共有することで、取り組みが可能
- ✓ 経営者の立場である人事部長（執行役員、健保理事長）と共有した
- ✓ 権限が企業担当者（部長）に委任されているため
- ✓ 同等の権限を有する副社長への報告をもって「可」とした

企業側の判断に委ねている 12%

- ✓ 経営者に共有するかどうかは、企業担当者に委ねているため
- ✓ 企業担当者へ必要があれば事業主への説明を行う旨伝えたが回答がない
- ✓ 企業担当者から情報提供していただくように依頼したため
- ✓ 経営者と共有するとなるとそれなりの対策や今後の方針等が必要となり、それらを打ち出せないでいる

体制・環境が不十分 10%

- ✓ 共有する場がない、会社も関心が薄い（関心を示さなかった・認識していない）
- ✓ 経営者が忙しく時間がないのに関心が低い
- ✓ 事業主が本業に傾注しているため、当面は共有する状況でないとの判断
- ✓ 事業主及び被保険者の協力が得られないから

今後対応を検討 17%

- ✓ 必要な体制・対応を整えた後に経営者に共有する
- ✓ 健康管理事業推進委員会（12月）の議論を踏まえて対応
- ✓ レポート内容について産業保健スタッフや事業主人事担当者で検証した上で共有すべきと判断
- ✓ まずは労使衛生会議の場で今後の対応について議論

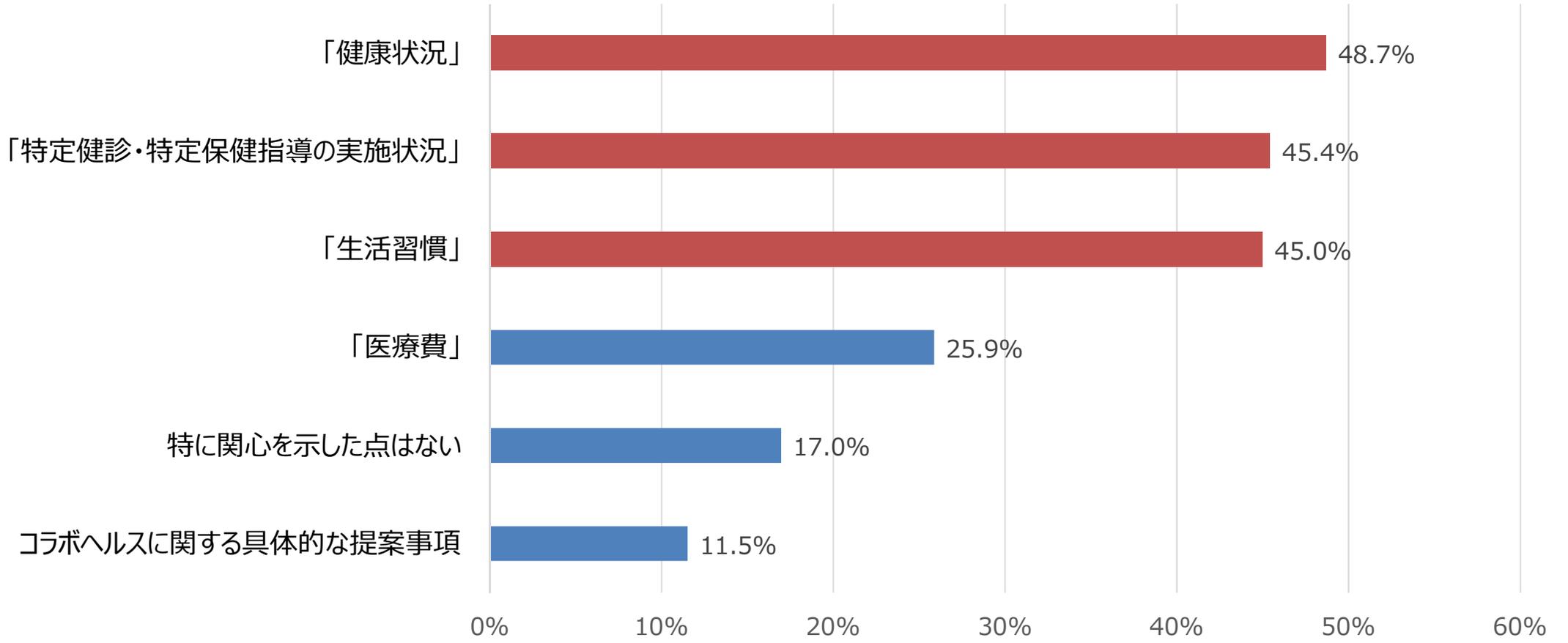
データに乖離があったため 4%

- ✓ 保健指導率が支払基金報告数値と乖離しているから
- ✓ 数値が正しく反映されていない為

経営層の関心事項は「健康状況」「特定健診等実施率」など

● 経営者（副社長、専務等を含む）は、「健康状況」、「特定健診・特定保健指導の実施状況」、「生活習慣」の3項目について、特に関心が高い傾向。

経営者が特に関心を示した点（n:460組合・複数回答）

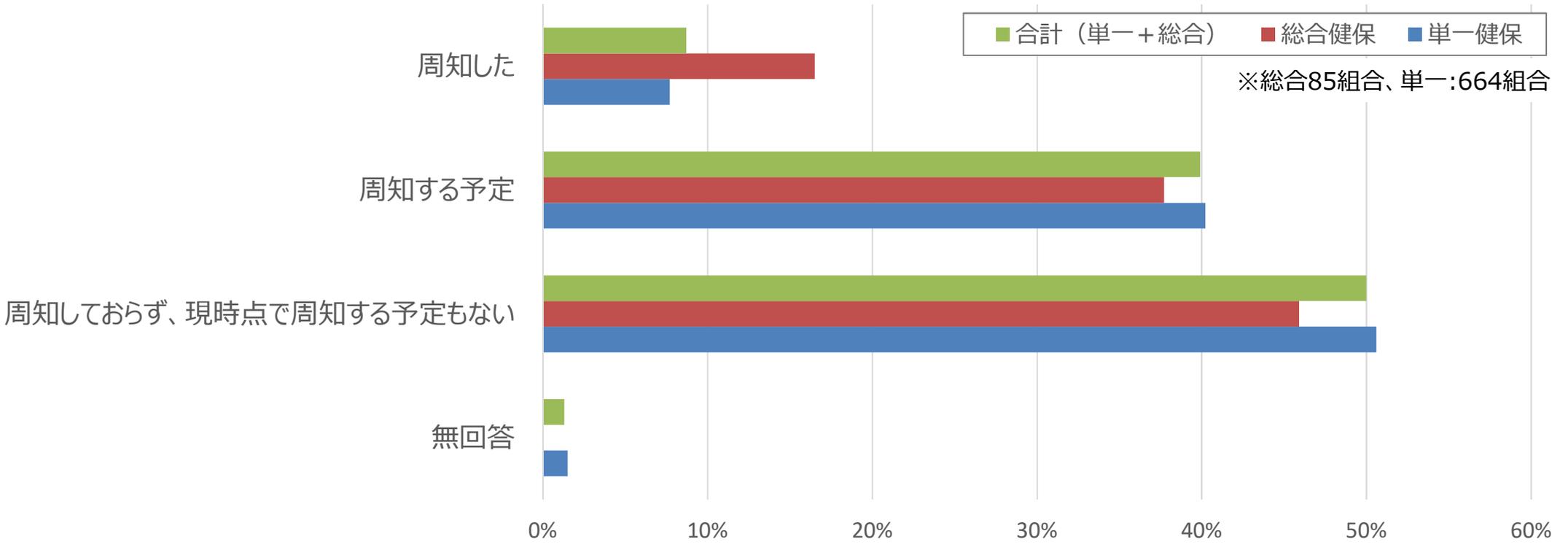


※経営者（副社長・専務等を含む）にスコアリングを「共有した」と回答した健保組合に対する設問

約5割の健保組合が加入者等へ周知する（予定含む）と回答

- 約半数の健保組合が加入者等に対して健康スコアリングを「周知した」・「周知する予定」と回答。
- なお、コラボヘルスの有無別、特定健診等実施率や健康状況スコアの評価別でクロス分析した結果、周知に対する対応は同じ傾向。

加入者等への周知状況

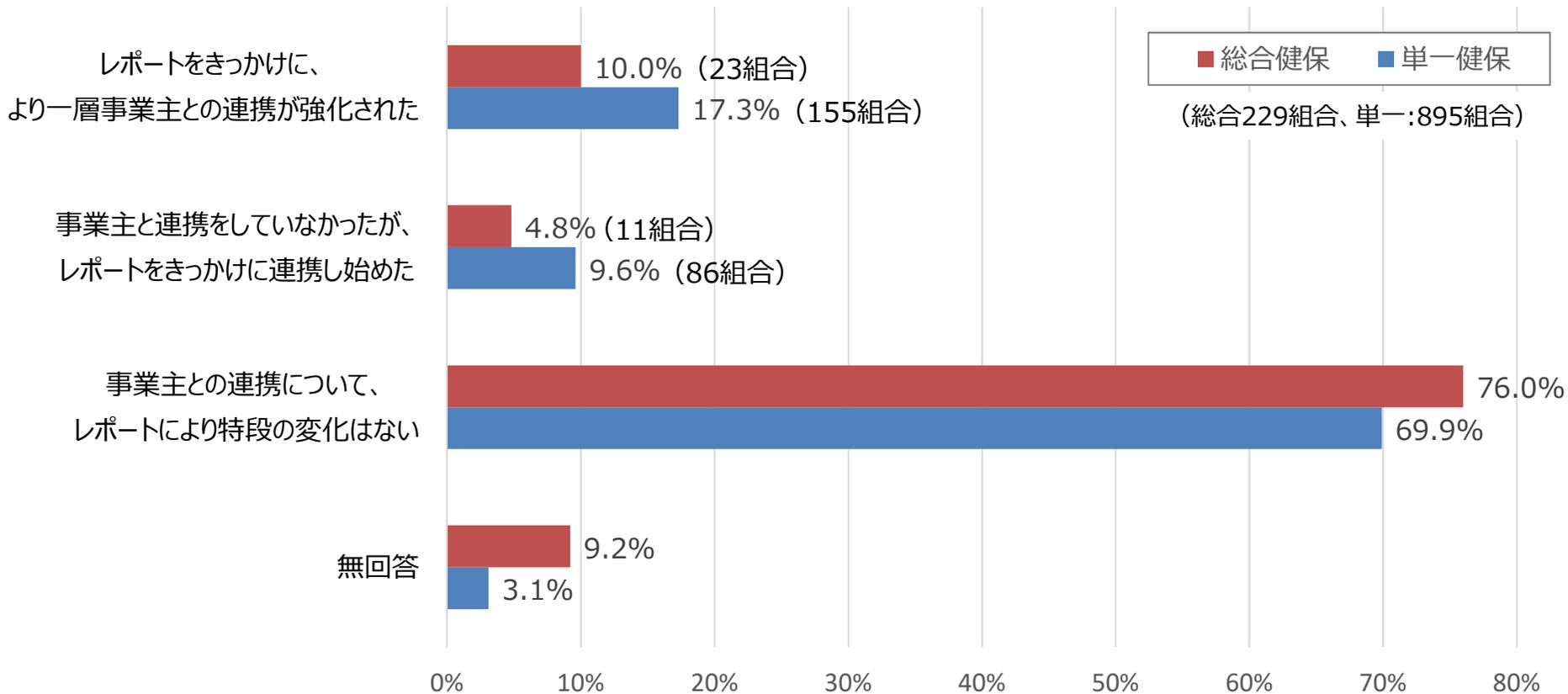


※事業主側にスコアリングを「共有した」と回答した健保組合（749組合）に対する設問

スコアリングを起点に97組合が新たに事業主との連携を開始

- スコアリングをきっかけに97組合が、新たに事業主との連携を開始。178組合が、事業主との連携を一層強化させた。
- 他方、約7割の健保組合が、事業主との連携について、スコアリングにより特段の変化がなかったと回答。

スコアリングをきっかけとした取組の変化



スコアリングを起点とした事業主との連携の変化

- スコアリングを起点とした事業主との連携の開始・強化が、保健事業の充実化、健康経営の意識向上につながっている。

より一層事業主との連携が強化された (具体的な内容)

【重要性の再認識】

- 健康宣言を出す方向へ踏み出した
- 役員会で初めて取り上げられ、情報共有が一層高まり、意識高揚に役立った
- 課題や目標意識の共有が従来以上に進んだ
- 保健事業に対する事業主の協力姿勢が強まった

【取組の充実化】

- 事業主が社内報でレポート内容を紹介したり、より健康への関心を高める特集を組むことになった
- 定期的な協議会での内容がより具体化され、双方の役割分担と強調が強化された
- 共有する課題について保健事業改善等の提案が増えた
- コラボヘルスへの具体的な取組検討の強化が図られた
- 従来手薄だった重症化予防についての検討を開始

スコアリングをきっかけに連携を開始 (具体的な内容)

【事業主の変化】

- ホワイト500認定取得がTOPの目標となった
- 事業主による健康宣言の実施
- 事業主がやっと重い腰を上げ始めた
- 経営側が従業員の健康状態に意識が向いてきた
- 「健康」を経営の重点事項に位置付けることになった

【議論の場を設置】

- 定期的な議論の場を設けることにつながった
- 対策のための専門委員会を立ち上げる予定

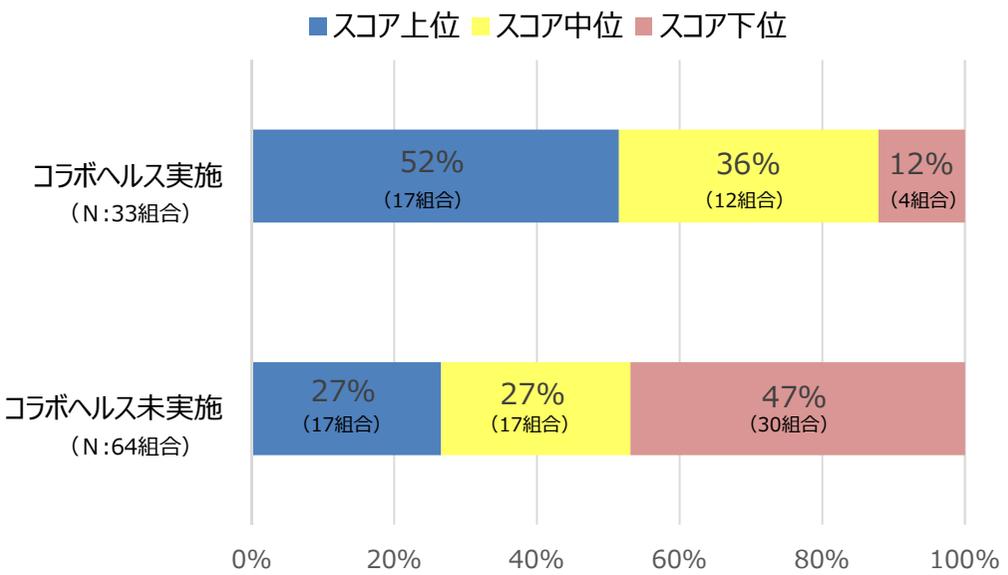
【事業主との協働を開始】

- 禁煙・インフルエンザ予防接種等での協働を開始
- 特定保健指導の就業中受診を検討するようになった
- 事業主と連携し新しい保健事業の検討に入った

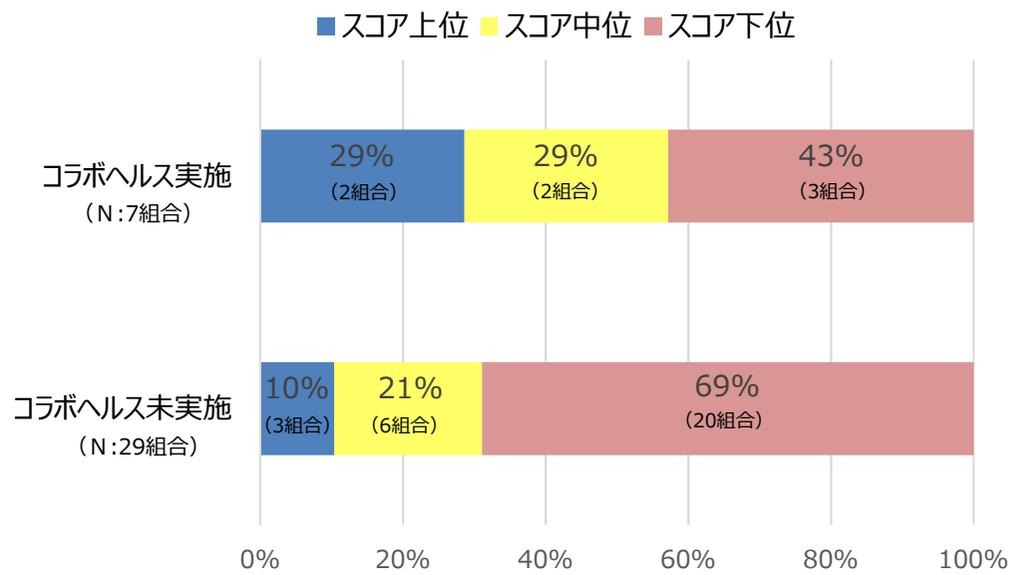
「事業主との連携について変化はない」と回答した保険者の特徴

- 「事業主との連携について、レポートにより特段の変化はない」と回答した健保組合は、単一健保が626組合、総合健保が174組合。
- そのうち、経営層へスコアリング等を共有していない単一健保は176組合、総合健保は47組合。特に、コラボヘルス未実施かつ特定健診等実施率スコアが低い健保組合が多い。

単一健保 (経営層へ共有していない176組合)



総合健保 (経営層へ共有していない47組合)

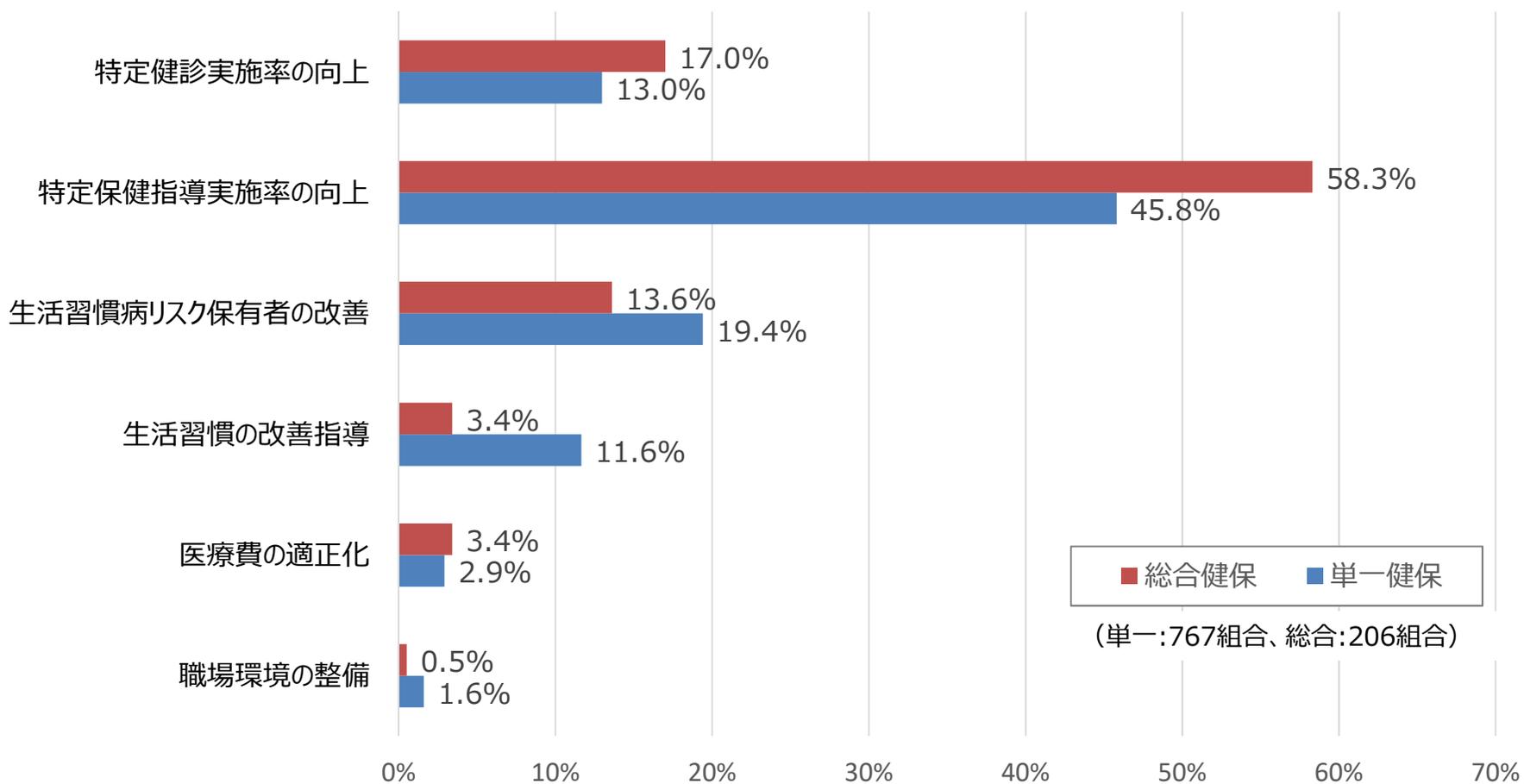


「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
 「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

健保組合として今後特に力を入れて推進する取組

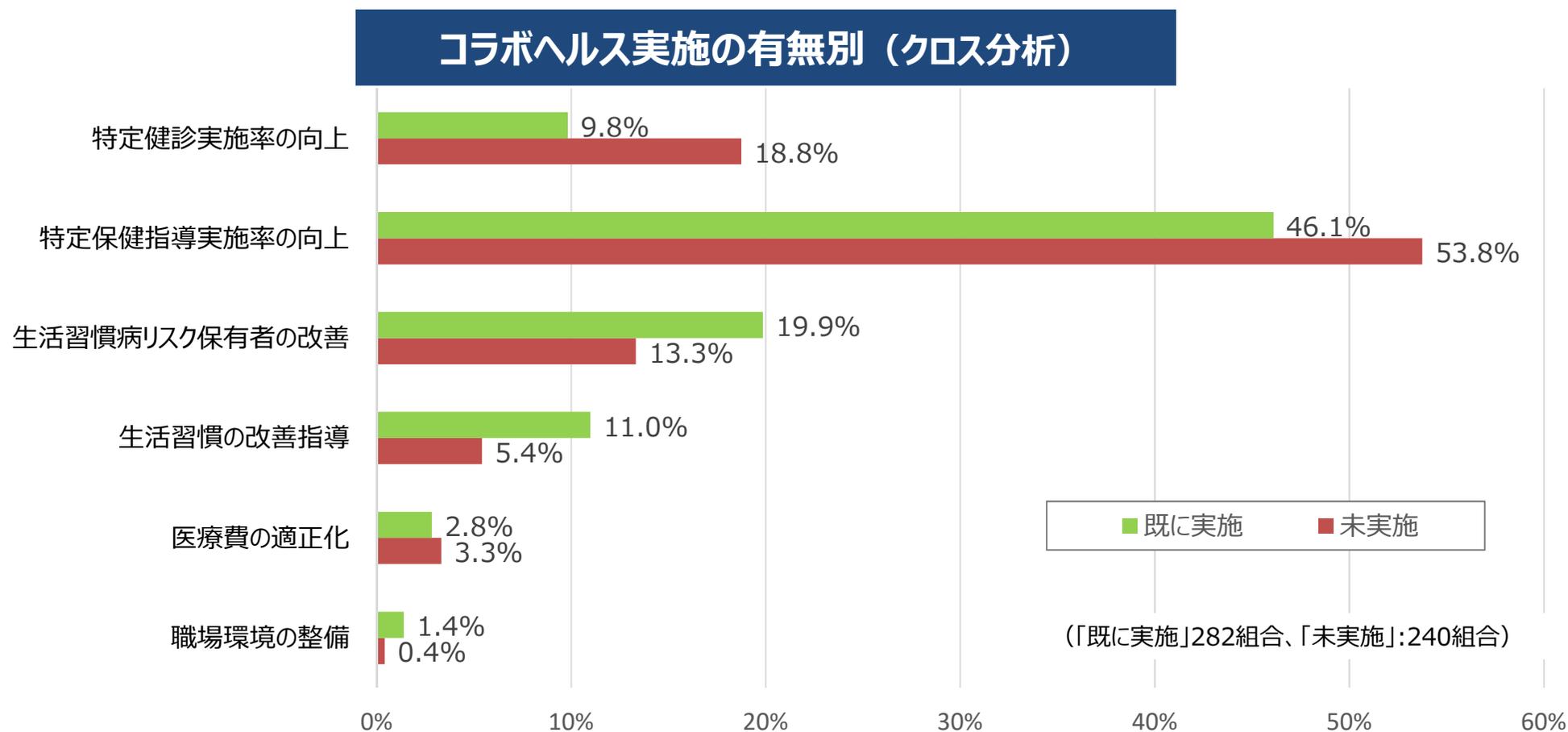
- スコアリングの結果を受けて、今後、特に力を入れて推進する取組として、単一健保・総合健保ともに「特定保健指導実施率の向上」と回答する割合が高い。

特に力を入れて推進する取組



コラボヘルス実施保険者はリスク保有者の改善にも傾注

- コラボヘルス実施の有無別でクロス分析した結果、コラボヘルス未実施の健保組合は、「特定健診・保健指導の実施率向上」を重視する傾向。
- 一方、コラボヘルスを既に実施している健保組合は、「生活習慣病リスク保有者の改善」や「生活習慣の改善指導」と、一歩踏み込んだ取組に力を入れていく傾向にある。

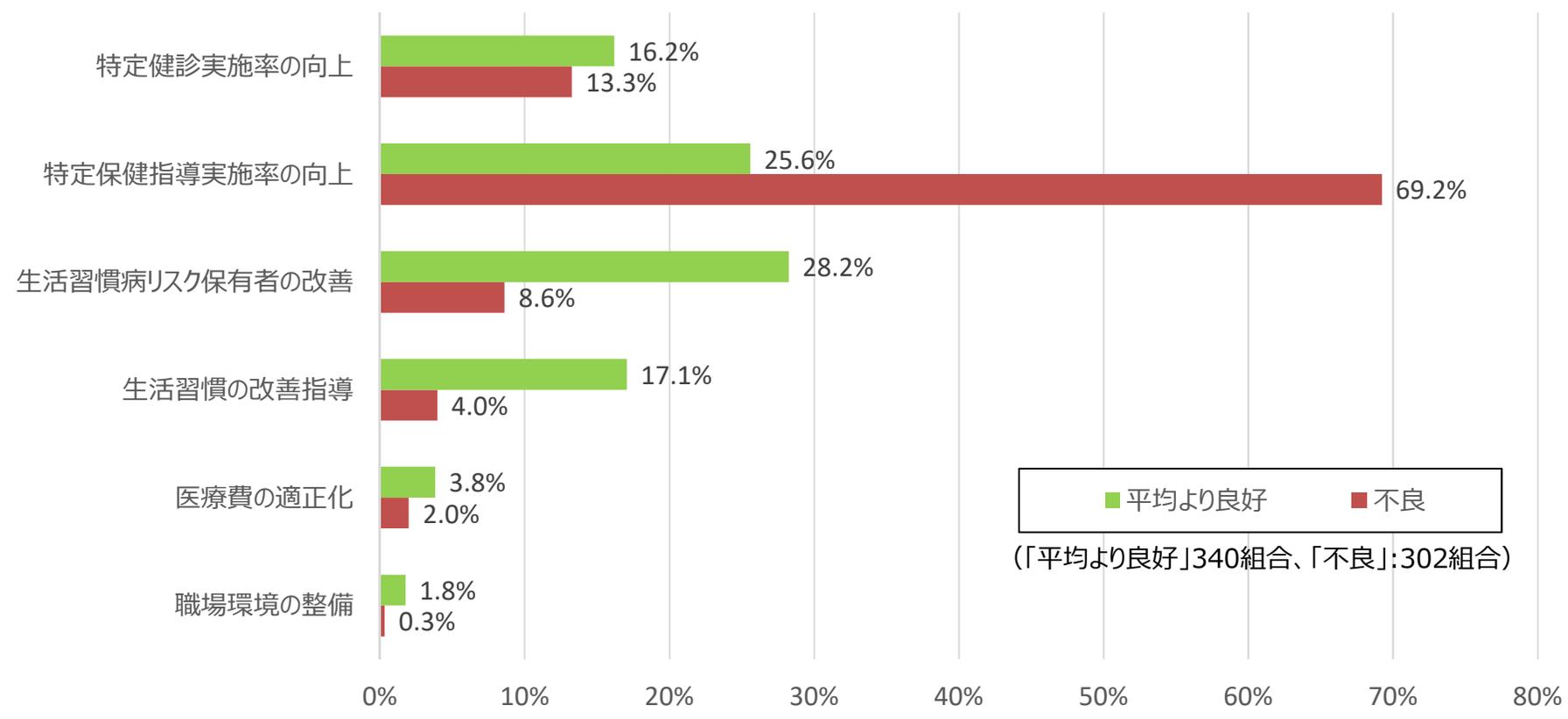


「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」 19

特定健診等実施率の高い保険者もリスク保有者の改善に傾注

- 特定健診等実施率の評価が上位な健保組合ほど、「生活習慣病リスク保有者の改善」や「生活習慣の改善指導」に力を入れ、下位の健保組合は、特定保健指導実施率の向上にまずは力を入れていく傾向。（健康状況の評価別では大きな傾向の違いは見られない）

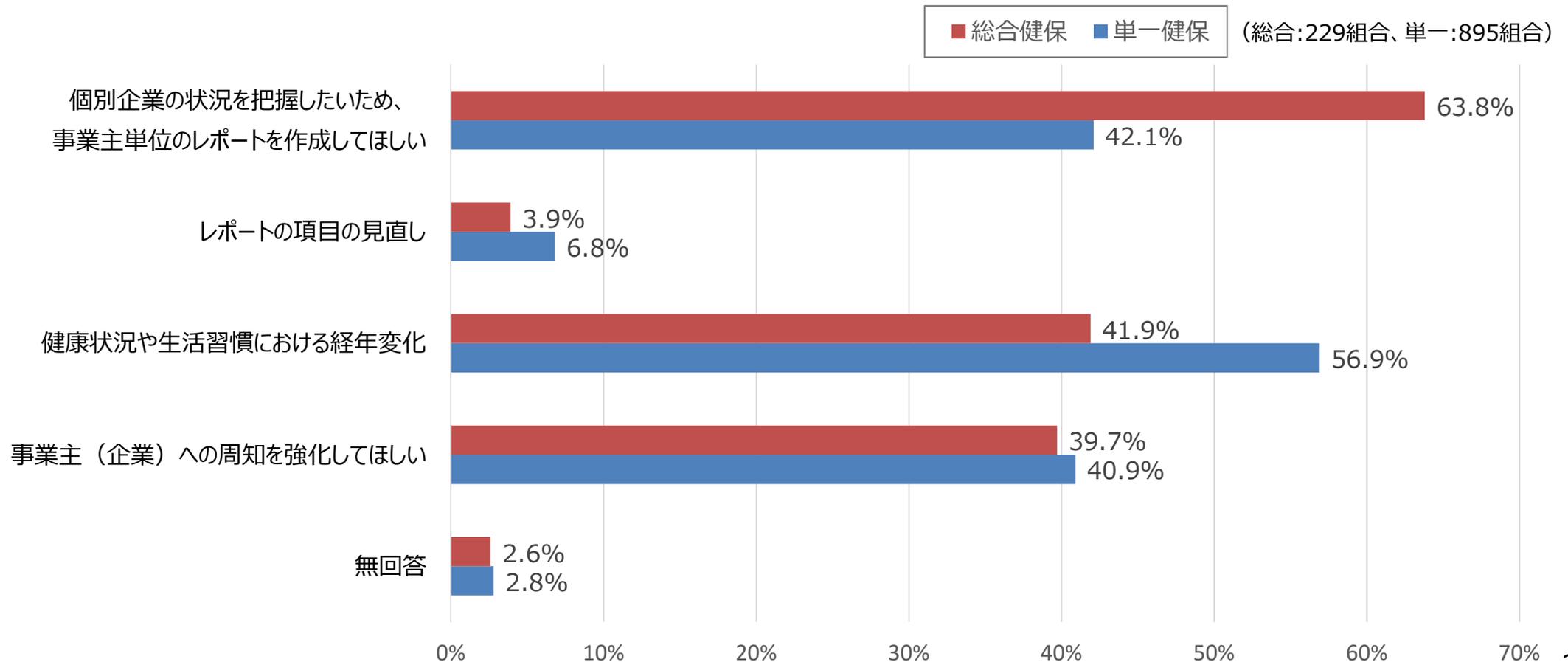
特定健診・保健指導実施率のスコア別（クロス分析）



スコアリングに今後望む改善点

- 単一健保は「経年変化」を望む割合が高く、総合健保は「事業主単位」を望む割合が高い。
- また、単一健保・総合健保ともに、「事業主への周知の強化」を選択する割合が高い。

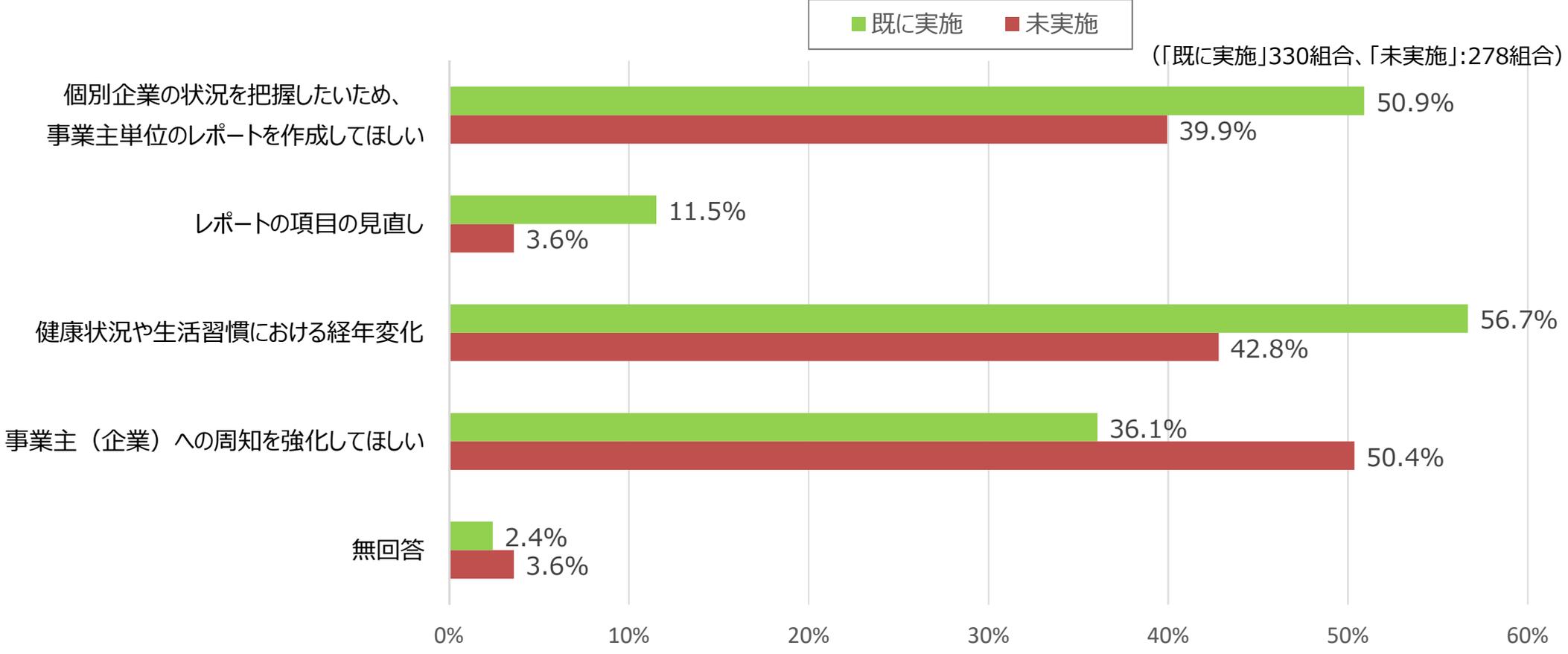
スコアリングについて今後望む改善点（複数回答）



コラボヘルス未実施の保険者ほど「事業主への周知強化」を求めている

- コラボヘルスを既に実施している健保組合は、「事業主単位のレポート」、「経年変化」を選択する割合が高く、未実施の健保組合ほど、「事業主への周知強化」を選択する割合が高い。

コラボヘルス実施の有無別（クロス分析）



「既に実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場があり、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っている」
「未実施」は、予防・健康づくりの取組について、2018年7月時点で「企業側と定期的な議論の場はなく、両者の連携による保健事業の効果的な推進のための具体的な取組を行っていない」

今後望む改善点（自由記述）

- 今後望む改善として大きく4点の意見があった（自由記述:144件）。
- 特に、「レポート内容の充実化」に関する意見が多く、次いで、「比較方法の工夫」「使用データの改善」等に関する意見が多い。

レポート内容の充実化

28%

- ✓ レポート本紙でも被保険者・被扶養者や男性・女性を分けると事業主との情報共有がしやすい
- ✓ 問診結果と健診結果の相関関係などの分析があればもっと事業主への説明がやりやすい。
- ✓ 加入者の性別・年代別構成の違いを反映した比較可能なデータを示して頂きたい。
- ✓ 医療費については、疾病分類別に具体的な分析を提示してほしい
- ✓ 健診、保健指導及び医療費における経年変化を掲載

比較方法の工夫

13%

- ✓ 各数値のトップと最下位の結果数値は公表すべき
- ✓ 比較は5段階評価の方がメリハリもあり、強み・弱みも把握し易い
- ✓ 本来あるべき状態との比較も知りたい。
- ✓ 同規模（被保険者数）、同業種での比較や同一県内健保でのスコアリング比較があればよい
- ✓ 単一健保・総合健保における平均や順位があると良い
- ✓ 同業種で比較したいので業態別のランキングを追加してもらいたい
- ✓ 医療費について「業態平均」、「全組合平均」の表記も追加してほしい

使用データの改善

10%

- ✓ レポートを活用するには2年前のデータでは古い
- ✓ データが古いので、昨年度のデータでレポートを作成できると良い
- ✓ 2年前のデータでは、既にリスクが変化(改善・悪化)している項目もあるため、周知しづらい。

発送方法や国からの働きかけ

7%

- ✓ 決算組合会（7~9月）のタイミングで発行されれば、課題共有・事業推進に更に役立てる
- ✓ 事業主への展開、周知方法は、保険者に委ねて欲しい
- ✓ 健保組合を通じず、国から直接、事業主へ通知し、機運を高めて欲しい。現状では動き辛い。
- ✓ 厚労省、経産省から直接事業主に働き掛け、事業主をその気にさせないと、コラボヘルスは進まない

その他

- ✓ 弱小健保事務職員2~3人の負担を増やすレポートは止めて欲しい。
- ✓ 企業や加入者によりわかりやすく説明する為にこのレポートを活用して資料を作成したいので、PDFではなく、データで提供をお願いしたい。
- ✓ 元データの数値（分母分子等）が知りたい。

健康経営度調査の結果概要

- 保険者アンケートとは別に、健康経営度調査を通じて、事業主に対し健康スコアリングレポート（2018年度版）に関するアンケートを実施。

	健康経営度調査
調査客体	国内の法人組織（3740社） ※未上場企業含む
回答数	1800法人 (上場企業859社、未上場企業941社)
調査期間	平成30年8月27日～10月12日
実施主体	経産省

健康経営度調査のスコア上位企業ほど経営者へ共有されている

● 健康経営度調査の結果を見ても、上位評価の企業ほど経営者に健康スコアリングが共有されている。

健保組合等から企業へのスコアリング共有状況 (n:1800法人)

ホワイト500
審査対象



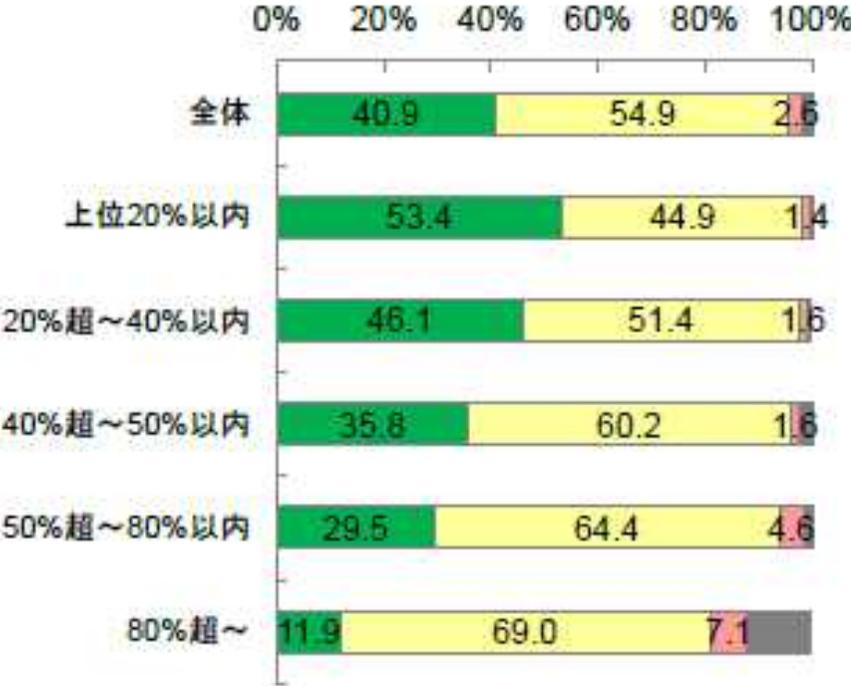
- 経営者に共有されている
- 経営者ではないが社内に共有されている
- 共有されていない
- 無回答

健康スコアリングの共有を通じた今後の取組検討が実施し始めている

● 健康スコアリングが共有されている企業のうち、約4割が既に今後のアクションの検討を実施。

■ Q66SQ1. 健康スコアリングレポートを踏まえ、課題の抽出、今後のアクションの検討など行っていますか。(1つだけ)
 ※Q66で共有している方を対象

■ 既に検討を行っている □ これから行う予定
 ■ 行っていない、行う予定はない ■ 無回答



(n:954法人)

■ Q66SQ2. (今後、健康スコアリングレポートの結果を活用した課題の抽出、今後のアクションの検討を行う予定はありますか。(1つだけ)

※健康スコアリングレポートを保険者から「共有されていない」と回答した法人を対象

□ これから行う予定 ■ 現時点では行う予定はない ■ 無回答

